

インターネットの情報を使うときの留意点



しおり
(中2)

インターネットで調べていると、同じ事柄についていろいろ情報や意見が出ていて、どちらが正しいのか分からなくなっちゃう。

そう。テレビや新聞にもそういった点はあるけれど、インターネットのほうが情報が多いかもしれないですね。それぞれのメディアには、次のような特徴があります。



泉先生
(司書)

テレビや新聞

- ・情報を発信する会社（人）が決まっていて、名前が明らかにされている。
- ・なるべく客観的な情報になるよう、情報の発信に責任を持っている。
- ・情報を受け取った人が、情報の発信元に確認する手段がある。
- ・現時点で分かっている情報を伝えている。

インターネット

- ・だれでも情報を発信することができる。名前を明かさなくてもよい。
- ・まちがった情報や、個人の感じ方に基づく主観的な情報もある。
- ・情報について責任を持たない発信者も多い。（・悪意を持って情報を発信する人もいる。）
- ・新しい情報も古い情報もある。



インターネットには、国などの公共機関や会社、団体だけでなく、個人が発信している情報もたくさんあるんですね。

そうなの。インターネットでは、管理者によってあつかっている情報もちがいます。国や公共機関のウェブページでは生活に関わるだじな情報をあつかうため、まちがいがいいか、客観的な情報かなどが厳しくチェックされています。



情報の信頼性



国などの公共機関、
研究機関のウェブページ



会社や団体のウェブページ



ユーザー参加型のサイトや
個人のウェブページ

信頼性 高い

信頼性 低い



インターネットで情報を調べるときに、ほかに気をつけたほうがよいことはありますか。

インターネット上には、出所が不明なものや今の時代には合わない情報もあるので、その点に注意しましょう。本当かどうか疑わしい情報は、いくつかの情報源に当たったり、図書などほかの資料で確かめたりするとよいですね。



- ・信頼できる情報か
(だれが発信しているのか)
- ・現在でも使える情報か
(いつ発信されたのか)



POINT

信頼できる情報かどうかを確かめよう